

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

マタイ福音書の18章には教会共同体についての教えがまとめられていますが、今日の箇所はその結びの箇所です。赦しに関するイエスの教えです。実は、このたとえ話は、主の祈りの中の「わたしたちの罪をお赦してください。わたしたちも人を赦します」という祈りの解説のようなたとえ話だとみられます。ペトロはどのくらい広く赦さなければならないかを知りたいと思っています。そこで、イエスに罪を犯し続ける兄弟を何回赦さなければならないかを尋ねます。7回で十分でしょうか。イエスは「7の70倍」と答えます。これは文字通り受け取るべきではなく、精神の寛容さを表しています。兄弟の犯した罪を赦すのは数えきれないほどと言うことになっています。

イエスはこの大切なポイントを説明するために、今日のたとえ話をつけ加えます。イエスが伝えたいことははっきりしています。私たちは、決して払い戻しできない多額の借金を赦してもらったその家来と同じです。もし私たちが仲間の兄弟姉妹に対して、これよりもはるかに小さな罪を赦さないならば、私たちは神の裁きに遭うでしょう。さらに、キリスト者として、私たちはキリスト者にとどまらず、どんな人でも私たちに罪を行った場合、すみやかに彼らをいつも赦す気でいなくてはなりません。

このようにして、神の愛と赦しを世界に表すのです。互いを赦し合うこと無しに、私たちの教会共同体は信じ合うことを証することはできないのです。一方、このたとえ話を讀むと、イエスの大事な言葉が思い出されます「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。ヨハ 13:35」

